



パラオ国花 RUR

Alli! パラオ通信

NO. 4
2026. 6 月
発行 二瓶篤子

~~~~~ 戦争と平和編 ~~~~~

パラオには、陸にも海にも戦争の跡が残っています。コロールには**旧日本海軍墓地**があり戦争で亡くなった人々を慰霊しています。墓地の最上段中央にある「慰霊碑」には、**左**のように刻まれています。



慰霊碑

南海のパラオの磯に
哀しく眠る戦友よ
平らけく安らかなれと祈るなり
永遠に 永遠に
A. D. 1966
日本 パラオ会
サクラ会

ペリリューやアンガウル戦いで亡くなった日本兵は約12,000人とされています。戦後80年経っても、未だに遺骨の収集は終わっていません。遺族にとっての戦争はまだ終わっていないのかもしれませんが。

さて、ペリリュー島やアンガウル島でどんな戦いが繰り広げられたのでしょうか。



日本軍の高射砲 (左: 上から見たところ 右: 横から見たところ)

ペリリュー島で見た日本軍の高射砲は海辺からかなり登ったところの洞窟の中にありました。飢えに苦しみながら高温多湿なペリリュー島で洞窟を掘り、戦闘する姿を想像するとやりきれない思いが募ります。

高射砲は敵機爆撃のためだけでなく地上戦にも使いました。



日本軍の九五式軽戦車

ペリリュー島では日本の戦車も見ました。戦車からシダや木が生えだしているところに80年の月日の経過をみることができます。

この戦車の鋼の厚さや頑丈さは、アメリカ軍のそれとは比べものにならないほど脆弱なものだとツアーガイドさんが教えてくれました。このあたりには銃の薬きょうが地面に散らばっており、ここが戦場であったことを生々しく物語っていました。息をひそめながらの攻防戦が繰り広げられたことでしょう。若い兵隊が多かったと聞きます。



ロックアイランドの近くの海には、1944年の空襲で沈んだと考えられる零（ゼロ）戦があります。海面に見えるのはプロペラの一部ですが、シュノーケリングで海中を見てみると、錆びついてぼろぼろになっているながらも運転席やハンドルらしきものが見えます。

若く優秀な青年がこの零（ゼロ）戦に乗って散っていったのだと思うと、戦争はなんと無残なものだと思わされます。

わたしは、そっと手を合わせて、ツアーボートに戻りました。

実は、日本兵の6分の1とはいえ、アメリカ兵も2,000人余がこの戦いで亡くなっています。戦争はやってはいけないことです。

海に沈む零（ゼロ）戦

アンガウルやペリリューの戦いでアメリカ軍の上陸が近いと察知した日本軍は、島のパラオ住民を戦闘前に避難させるよう命じました。そのため、ペリリューの戦いやアンガウルの戦いでは、住民の命が守られました。



ペリリューの戦いでは、アメリカ軍はおよそ42,000人でした。しかもその中核は、アメリカ軍最強と謳われた第一海兵師団。中川州男大佐（当時）は、約10,000人の日本兵が対抗するために策を練りました。島の岩山や洞窟を利用した陣地を築き、地下坑道を結んで持久戦をとったのです。しかし、弾薬や食料が尽き、1924年11月24日に大佐は司令部壕で自決しました。最後に「サクラ、サクラ」という電文で日本軍の戦闘の終結を大本営に伝えての自決でした。

中川州男中将の碑 （戦後二階級昇進）

もう一度、旧日本海軍墓地に戻ってみましょう。

墓地の最上段、左側に広島県の戦没者慰霊碑があります。ここを訪れた時に、わたしはその碑文に最も心を動かされました。「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」という言葉は、広島



戦没者慰霊碑

「不戦の誓い」

広島県

市の広島平和記念公園で見た「原爆死没者慰霊碑」の碑文と同じものでした。これは、「人類全体が戦争や核兵器の使用という過ちを二度と繰り返さないことを誓う言葉」です。これはわたしたちの心に重く響くものでした。「平和」こそ人類全体が希求すべきことです。

この海軍墓地は、わたしの住むアパートから徒歩で5分ほどの場所にあります。日本人会が3月と8月の年2回、墓地清掃をしています。春のお彼岸とお盆の時期にあたる時期、わたしはこの墓地清掃に参加するようにしてきました。

そして、ある時、この旧日本海軍墓地のロケーションに重要な意味があることを教えてもらいました。丘の斜面を活用してつくられた墓地は、遠く日本の方角を望むようにつくられているのです。日本に帰りたくても帰ることが叶わなかった人たちをせめてもの思いで、こうした立地に弔っていたのです。お線香を手向けながら、わたしは心の中で、戦争で亡くなった人々のご冥福を祈るのです。



海を望む墓地